

「野川河床整備事業に関する事業説明会(野川橋～又住橋)」議事要旨

1. 開催概要

日 時：令和8年3月24日(火) 19:00～20:30

場 所：調布市市民プラザあくろす ホール1、2

参加者：24名

2. 主なご質問・ご意見と都の回答

番号	ご質問・ご意見	都の回答
1	5～6月はコイやナマズの産卵期である。工期を1か月前倒しするなど、工事と産卵期が重複しないようにしてほしい。	5月までに河道内の作業が終わる工程で発注しているが、初夏までかかっている事例もあるため、施工方法や工事延長など、今後も配慮する。
2	この地域は在来種のクワコが生息しているため、高水護岸の上段に生える桑の木はできるだけ残してほしい。	治水上の影響がなく、保存すべきと考える樹木がある場合は、状況に応じて地域の方々にも意見を頂くなど行ったうえで残すことを検討する。
3	野川の水量を増やすため、治水だけでなく保水の観点でも検討してほしい。	関係機関と調整するなど、検討する。 流域対策が進めば湧水量も増えると期待している。
4	今後の河床整備工事でかかる費用を教えてください。	総工費を積み上げたものは無いが、近年の工事は約200mで2億円程度の工事費となっている。
5	今回事業範囲の1工区の着手はいつ頃を想定しているか。	令和10年度から着手することを想定している。
6	工事説明会はその都度開催するのか。	時間の都合で参加できないという声もあるため、工事着手前にお知らせビラを配布し、説明資料を北多摩南部建設事務所HPに掲載、質問があれば適宜対応させていただくことを考えている。
7	世田谷区間も含め、過去の説明会資料や質疑応答についてもHP等で分かりやすく開示してほしい。	他部署に関係する内容のため確認してお伝えする。 【補足：過去の説明会資料等】 北多摩南部建設事務所HP https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jimusho/kitanan/k
8	工事完了区間も生物調査を行っているとのことだが、結果はどうであったか。	工事完了後3年間、生物調査をしており、元の環境が回復する傾向にあることを確認している。

9	今回事業範囲を12の工区に分けるとのことだが、搬入路はどこを想定しているのか。通行止めや公園使用不可といった情報は早めに知りたい。	実際に使用できるかは管理者との協議もあり、今後の詳細設計で検討する。通行止めなどの情報はお知らせいただくなどで周知する。
10	今回事業範囲はどれほどの期間がかかるのか。	下流より順次工事を進めていくため、1つの工事を11月から5月にかけて行う。12の工区に分けているため、12年ほどかかることを想定している。
11	計画高水流量の意味を教えてください。	時間50mmの雨が降ったときに、河川に流れる水の量である。下流に行けば行くほど水が集まってくるため、区間ごとに数値が異なっている。
12	低水路護岸は全区間に設置するのか。	洗掘を受けやすい箇所や高水敷の幅員確保のために必要な箇所に設置していく。
13	樹木はカワセミなどの鳥の止まり木という観点からも重要なものであるので、配慮してほしい。	止まり木の代替として、木杭の設置などを検討する。
14	急な増水時に通路へ避難するための階段が少ないため、既設階段の設置間隔が大きいところは新たな階段の設置を検討してほしい。	公園や緑地など背後地に余裕がある場所、騒音等の影響を考慮し住宅から距離がある場所を選定する。
15	親水性を高めるため、低水階段だけでなく、水際にアプローチできるような、なだらかな坂路も設けてもらいたい。	低水路護岸の前面に寄せ土をしてなだらかな坂路をつくるなど、詳細設計で検討する。
16	又住橋より上流は整備しないのか。	野川流域河川整備計画に基づき、上流の榛沢橋まで河床整備を実施する予定である。
17	不透水層設置工に使用する粘土はどのような材料か。	これまでの工事では、多摩地域から採取される荒木田土を使用しており、今後も同様な土の使用を想定している。
18	河床にコンクリートやビニールで覆われていると思われる箇所が見られるが、意図は何か。	入間川の合流部や下水道の吐口など、洗掘を受けやすい箇所にコンクリート張りを行っている。ビニールは工事で設置したものではないと思われる。
19	近年工事を行っている箕和田橋から野川橋の区間において、河床掘削とは何cmほど川底を掘り下げているのか。	掘削深は平均30cm程度である。
20	5mm分の調節池整備や10mm分の流域対策は完了しているのか。また、調節池整備とは、野川大沢調節池を指しているのか。	5mm分の調節池整備や10mm分の流域対策は完了していない。調節池については、野川大沢調節池以外にも整備が必要である。
21	ハザードマップには過去最大として時間最大雨量153mmと記載されている。時間65mmの整備では不十分ではないのか。	河床整備などのハード対策は時間を要するため、段階的に進めていく。一方、近年は時間100mmを超えるような雨も増えているため、気象状況の確認や避難行動などのソフト対策も重要と考えている。 【補足】 時間最大153mmは想定しうる最大規模の降雨。

22	下流の工事完了後をみると、工事前より植生が貧弱になった気がしている。貴重な種類もいると思うが、どのように保全しているのか。	工事着手前に生き物救出作戦を実施し、工事区間の上下流に重要種の移植を行っている。
23	重要種以外の植物には何か対策をしているのか。	重要種のように移植などは行っていないが、工事完了後数ヶ月で植生が戻っていることを生物調査で確認している。
24	この数十年の間でどんどん水源が減っており、今回のような水涸れが頻発するようであれば、今後十数年かけて行っていく河床整備事業を止める必要が出てくるのでは。	治水対策として河床整備は必要である。粘土張りも、水が地中に浸透しないようにするためには必要な作業であるため、事業は継続する。
25	階段について、河道内を散歩するためには数が少ないが、サギ類のように人に近づかない生物も生息しているため、現状の数で問題ないと思う。	階段については増設と現状維持の両方の意見があるため、地域住民の意見を聞きながら検討させていただく。
26	近年ハザードマップが改定され住んでいるところの浸水深が引き上げられた。地球温暖化による降雨の変化もよく取り上げられている中、時間50mmの河道整備で十分なのか。	河川整備は下流から段階的に進める必要があり、時間を要するため、引き続き時間50mmの河道整備を進めていく。河道整備と併せて調節池整備や流域対策を進めることが重要である。

【補足：質問番号26】

気候変動を踏まえた河川施設のあり方検討委員会

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/river/jigyo/kasenbu0217>